● **新指定答申文化財の概要**

【 種　別 】有形文化財　彫刻

【 名　称 】塑造仏頭（そぞうぶっとう）

【 員　数 】１個

【 所在地 】四日市市西日野 2970　（顕正寺）

【 年　代 】奈良時代（８世紀後半）

【 概　要 】

顕正寺（けんしょうじ）に伝来した、奈良時代（８世紀後半）の塑造（そぞう）の如来（にょらい）頭部です。全長 13.9 ㎝で、後頭部と頸部以下を欠損し、背面は平らになっています。半眼（はんがん）で口を閉じた慈悲相（じひそう）で、頭部には肉髻（にっけい）をあらわしています。表面は黒褐色ですが、元々は彩色仕上げだった可能性があります。

塑像（そぞう）は、主に白鳳（はくほう）時代から奈良時代にかけて、心木（しんぎ・芯となる木）に荒縄を巻き付けた上に塑土（そど・つなぎを混ぜた粘土）を盛って造られました。本像は後頭部を欠損しているため心木が残っていませんが、元々は背面の平らな部分に心木が接していたと考えられ、心木に関する構造が見て取れる重要な事例です。

三重県内には白鳳時代・奈良時代の仏像が少ない上、なかでも貴重な塑像であることから、三重県の彫刻史を語る上でも欠かせない仏像のひとつといえます。

塑造仏頭